



# 『We ❤ 鏡中』

令和7年 6月12日

## ☆「散乱したゴミ」から考える

4/24の学校だより「We ❤ 鏡中」で、昼休みのゴミ拾いのボランティア活動を紹介した際、「トイレの壁紙を破って窓の外に壁紙がたくさん捨てられている」という生徒の訴えで、生徒と一緒にそのゴミ拾いをしたことをお伝えしました。

本日の朝、同じようにトイレの壁紙が沢山捨てられていたので、あいさつ運動からの帰りにゴミ拾いをしました。



破られた壁紙とトイレットペーパーの芯、お菓子の袋、ガムの食べかす等々があり、バスの中から手で捨てるぶんを拾っていたら、2階から大きな声がしました。振り返るとお菓子の袋を切った先の部分がゴミを拾った後にあらたに落ちていました。

(2枚目の下の写真右端のゴミ)

私がいることを知っていて、わざと落としたのか。私がいることを知らずに投げ捨てたのかは不明です。どちらにしてもゴミを投げ捨てる生徒がいることが残念でなりません。ゴミを拾う生徒も多数いる中で、ゴミを投げ捨てる生徒の心をどのようにしてえていくかが本校の大きな課題です。ゴミを拾う生徒の姿は神々しくさえ有りますが、友人のそういった姿を見ても、そこにゴミを捨てるという行動をする気持ちは…。

4/24の学校だよりも書いた  
ように、私は「人生は、日々の小さな選択の積み重ね」である思っています。その小さな選択が人生を大きく変えると思っています。ゴミを拾うも捨てるも小さな選択ですが、その積み重ねが人生を変えると思います。

「信頼される人・信頼できる人」になろうとする生徒が本校の目指す生徒像の1つなのですが、「自分が捨てたものでもないのにゴミを拾う人」と「友人がゴミを捨っているところにゴミを捨てる人」と「信頼される人」はどうでしょうかと生徒に問いたいです。答えは明らかだと思います。「人生は、日々の小さな選択の積み重ね」ということが、社会に出たら余計に感じると思います。社会に出て、大きな「信頼」を得られるよう学生時代に学んでほしいです。

